



熊本再春医療センター医療連携室だより



# 再春

令和7年 第1号

発行所：熊本県合志市須屋2659番地  
熊本再春医療センター  
編集：地域医療連携室

KUMAMOTO SAISHUN MEDICAL CENTER

熊本再春医療センターホームページ <https://saishun.hosp.go.jp/>



## 病院の理念

思いやりの心で  
患者、地域、職員に愛される病院

### 病院運営の基本方針

1. 治し、支える医療の実践
2. 専門医療の推進
3. チーム医療の実践
4. 地域医療連携の推進と地域への貢献
5. 経営基盤の安定
6. 働きがいのある職場作り

## Contents

1. 院長あいさつ .....2
2. 診療科紹介【放射線科】 .....3
3. 病棟・部門紹介【7階病棟】 .....4
4. 開放型病院登録医紹介【なかがわ整形】 .....4
5. 病棟・部門紹介【臨床研究部】 .....5
6. 開放型病院登録医紹介【千場内科クリニック】 .....5
7. 第13回『医療連携の集い』 .....6
8. 第78回国立病院総合医学会のご報告 .....7
9. 第18回健康フェスティバル .....8
10. 地域医療連携連絡協議会について .....8



## 新年のご挨拶

病院長 上山 秀嗣

新年あけましておめでとうございます。

令和 7 年の新春を迎え、皆様方には医療連携を始めとして多大なるご協力とご支援を賜りまして厚く御礼申し上げます。

今年の干支は、乙巳（きのとみ）です。努力を重ね物事を安定させていく、という意味合いがあるそうです。巳（み）は蛇（ヘビ）を意味しますが、蛇は古来より神聖な生き物として認識されていて、逞しい生命力を持ち脱皮するたびに表面の傷が治癒していくことから、医療のシンボルともされています。今年こそは長いコロナ禍からの脱皮を図りたいものです。

一方、現代社会は VUCA（ブーカ）の時代とも言われています。VUCA とは Volatility（変動性）、Uncertainty（不確実性）、Complexity（複雑性）、Ambiguity（曖昧性）という 4 つの単語の頭文字を取った言葉で、先行きが不透明で将来の予測が困難な状態を指します。4 年以上にわたるコロナ禍の影響で国民の医療に対する意識が大きく変化したことにより受診・入院控えは回復せず、経済の不安定化により医療材料費・光熱費が高騰し、診療報酬は削られ、病院経営は益々困難を極めています。既に医療機関の倒産や廃業も目立ってきています。当院はこのような VUCA 時代において、予測不可能な新興感染症や大規模災害も含めて柔軟に対応できるように、“思いやりの心で患者、地域、職員に愛される病院”を目指して努力して参りたいと思います。

このような状況ですが、当院が位置する菊池地域は菊陽町に台湾の巨大半導体メーカーである TSMC が進出したことによって目覚ましい経済発展が見込まれています。TSMC による経済効果は今後 10 年間で 11 兆円規模と試算されていて、人口も 10 年間は増加すると予測されています。その一方で、人件費や土地価格の高騰が起これ、医療機関にとっては必ずしも好ましい状況ではないようです。

現在、国道 387 号線に面した病院前では、令和元年 11 月に着工しました合志市による「御代志地区土地区画整備事業」の一環として各種商業施設が建設中です。本年 3 月末には完成予定とのことで、完成後には病院前は一層賑やかになると期待しています。

昨年は関連医療機関の皆様との連携の会、「医療連携の集い」を令和 6 年 6 月 8 日（土）にホテル日航熊本において開催しました。お蔭様で 200 名弱の医療関係者に参加して頂き、盛況のうちに無事終了することができましたことを厚く御礼申し上げます。なお、次回は **令和 7 年 6 月 7 日（土）**、同じくホテル日航熊本において開催予定ですのご案内申し上げます。

最後に私事で恐縮ですが、今年 3 月末に定年退職の予定です。来年度は幹部が一新されますので、心機一転して頑張りたいと期待しています。皆様方には 19 年間に及ぶ在職期間中、公私ともに大変お世話になりました。ここに深く感謝申し上げます。



## ◆スタッフ紹介

- ・放射線科部長 中島 康也（平成6年卒）  
放射線診断専門医、IVR 専門医、放射線科  
研修指導者、マンモグラフィー読影認定医
- ・放射線科医師 杉谷 亜希（平成28年卒）  
放射線診断専門医

## ◆概要

放射線科は患者さんにはなじみが薄い診療科と思いますが、コンピューター断層画像（CT）、核磁気共鳴画像（MRI）、核医学（RI）など高度医療に欠かすことのできない画像を解析して、診断レポートを作成しています。また、画像下治療（IVR）にて組織採取などを行うこともあります。

当院では 64 列 CT（シーメンス Definition Edge、2016 年導入）と 1.5T MRI（フィリップス Ingenia、2012 年導入）、SPECT 対応型ガンマカメラ（シーメンス Symbia、2023 年導入）を使用して高精度の画像診断を行っています。

放射線診断専門医 2 名で画像診断を行い、速やかにレポートを作成し、病気の診断や治療方針の決定に役立っています。

近隣の医療機関からの検査依頼も多く、迅速な対応を心がけています。

IVR は主に肺結節に対する CT ガイド下生検を行っています。

## ◆診療実績

令和5年度の検査件数 / 紹介件数 / 紹介率です。

- ・CT 7655 件 / 791 件 / 10.3%
- ・MRI 3165 件 / 944 件 / 29.8%
- ・RI 445 件 / 180 件 / 40.4%
- ・IVR 15 件

## ◆展望

画像診断の期待に応えるべく、幅広い知識と最新の情報を得ながら読影力を向上させるために努力していきます。また、患者接遇に留意し、迅速かつ正確な検査とレポート作成を行い、依頼された医療機関とのコミュニケーションを密に保っていきます。

## 【用語解説】

## ・コンピューター断層画像（CT）

X 線を回転させながら照射し、体の輪切りの画像を作成します。頭部から足先まで全身の検査に使用しています。一度に複数枚の断面画像を撮影し、広範囲を短時間で撮影することが可能です。また、得られた画像データをもとに 3 次元画像（骨や血管）を作成することもできます。

## ・核磁気共鳴画像（MRI）

強い磁石と電波を利用して画像を作成します。放射線を使用しないため被曝の心配はありませんが、CT よりも時間がかかり、狭い空間で同じ姿勢を保つことが必要となります。脳や脊椎、四肢、様々な臓器の病気の診断や治療に有効です。

## ・核医学（RI）

微量の放射線を出す放射性医薬品を体内に投与し、臓器や体内組織などに集まる様子を画像化する画像診断の一つです。血流や代謝などの機能変化を画像情報として反映することができます。

## ・CT ガイド下生検

病変の部位を CT 画像で確認しながら皮膚表面より針を刺し進め、その組織の一部採取するものです。気管支鏡検査で診断が困難な病変に対してこの検査を行い、良性か悪性か判断することは今後の治療方針の選択に有用な役割を果たします。

# 病棟・部門紹介 No.23

## 7階病棟のご紹介

7階病棟看護師長  
西岡 恵子

7階病棟（呼吸器センター）は、呼吸器感染症、肺がん、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、気胸などの幅広い疾患の患者さんが入院されています。入院患者さんの平均年齢は75歳でさまざまな健康の段階の患者さんに対し、入院時より退院を見据えた看護ができるよう多職種と連携し安心・安全な看護を提供できるよう努めています。患者さんのこれまでの生活背景を知り、カンファレンスで看護の方向性を検討しています。医師からの病状や治療方針の説明などの際は看護師が同席し、患者の意思決定支援ができるよう努めています。また、入院による日常生活動作（ADL）の低下をきたすことなく自宅や施設に帰れるよう特に高齢の患者さんはリハビリ室とも連携し個々に応じたリハビリを実施しています。

当病棟では化学療法による治療も行っており、治療の段階に応じた支援を行っています。病状の経過に応じた意思決定支援ができるよう緩和ケア認定看護師、がん化学療法看護認定看護師とも連携しタイムリーに介入できるように努めています。多職種で構成された緩和チームとのカンファレンスを週1回行い、いろいろな立場からの意見交換はとても有意義と考えています。

気管支鏡、肺生検、睡眠時無呼吸症候群などの検査入院や緊急入院にも対応し診断後の治療に繋がられるよう研修や学習会等でスタッフの研鑽にも努めています。

患者さんが病気とともに地域でどのような生活を送りたいのかを常に考えながら急性期、慢性期、回復期、終末期それぞれの時期に応じた看護を提供し、当院の理念である「思いやりの心で患者、地域、職員に愛される病院」を念頭に病棟運営ができるよう努めてまいります。



## 開放型病院登録医紹介

### なかがわ整形

院長／中川 弘彰

熊本市北区武蔵ヶ丘2-2-2

TEL 096-386-3188 FAX 096-386-3190

診療内容／整形外科・リハビリテーション科・形成外科

診療時間／ 9:00～13:00（受付12:30迄）

14:30～18:30（受付18:00迄）

診察日・診療時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
9時00分～13時00分 （受付12:30迄）	○	○	○	○	○	○	×
14時30分～18時30分 （受付18:00迄）	○	○	○	○	○	○	×

なかがわ整形 中川院長先生には、平成23年8月より当院開放型病院登録医として、多くの患者さんをご紹介いただいております。

熊本市北区武蔵ヶ丘の武蔵中央通りに位置し、整形外科・形成外科・リハビリテーション科を主体としてMRI等の撮影設備、充実したリハビリテーション施設を有し、漢方や東洋医学を取り入れた患者さん主体の治療方法にて地域の多くの患者さんの診療をされています。





# 病棟・部門紹介 No.24

## 臨床研究部のご紹介

臨床研究部長  
前田 寧

### Q1. 臨床研究部って？

リウマチ・骨運動器疾患、神経筋疾患、小児生育医療及び重度心身障害の政策医療をはじめ全診療領域における研究促進を目的に、平成6年に設置されました。

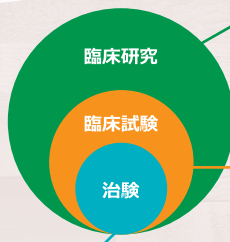
当院では以下の5研究室と治験管理室で構成しています。

- ・病理研究室・病態生理研究室・薬理生化学研究室
  - ・免疫アレルギー研究室・治療技術研究室・治験管理室
- 診療科や部門単位ではなく、垣根を越えた連携をとれるように構成されています。また、国立病院機構のネットワークを活かした臨床研究にも積極的に参加しています。

### Q3. 具体的にどんなことをしているの？

- ・臨床研究を推進するため、開始から終了までの手続きやデータ収集のサポートを行っています。
- ・ディオバン事件（利益相反問題やデータ改ざん事件）を受け、2019年より「臨床研究法」が施行されました。関連指針や法令を遵守した臨床研究が行われるよう、規定やマニュアル等の整備、研究倫理教育 e ラーニング (eAPRIN) 等の教育研修や情報発信を行っています。
- ・院内で多数行われている研究活動をとりまとめ研究実績を定期的に報告しています。

### Q2. 「臨床研究」って何ですか？



#### 「臨床研究」

「人を対象して行われるすべての研究」で調査や報告なども含み、医師が治療経過をまとめて学会や論文で発表したものや、コメディカルや看護師等が行う研究発表なども含みます。

#### 「臨床試験」

臨床研究の一部で、病気の予防・診断から治療にわたって、新しい方法が有効か、以前からある方法と比べて優れているかなどを確認する試験

#### 「治験」

臨床試験のうち、新しい薬の承認を得るために行われる試験

#### お願い！

国は「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」等の厳格な遵守を求めています。臨床研究を実施する際には「倫理委員会審査申請書」（デスクネットの「文書管理」→「倫理委員会・利益相反申請様式」に保管）の作成・提出をお願いします。

### Q4. 昨年度の論文や研究は？

英文原著 4 邦文原著 11 学会等発表 101 治験等症例数 319

### お知らせ



- ・自分の手で核酸 / タンパク質の解析や特殊細胞分画を集めて解析したいという方がいらっしゃれば相談ください。基本的な研究機器をそろえています。（上に示した物は一部です）
- ・病理解剖は当院で実施可能です。相談ください。病理解剖は若手医師の専門医取得や論文作成などに重要です。

ご不明な点があれば  
臨床研究部長まで

## 開放型病院登録医紹介

### 千場内科クリニック

院長 / 千場 文江

熊本県熊本市北区清水新地1丁目5-38

TEL 096-343-8988 FAX 096-343-8995

診療内容 / 内科一般

診療時間 / 9:00~12:30

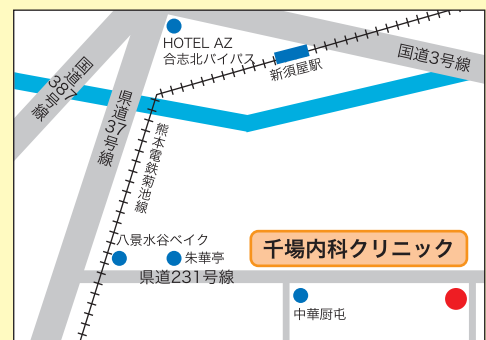
14:00~17:30

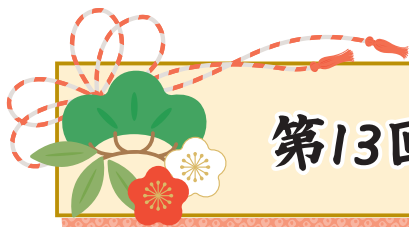
診療日・診療時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
9時00分~12時30分	○	○	○	○	○	○※1	×
14時00分~17時30分	○	○	×	○	○	×	×

※1 土曜日の診療時間は9:00~13:00

千場内科クリニック 千場院長先生には、平成23年8月より当院開放型病院登録医として、多くの患者さんをご紹介いただいております。

熊本市北区清水新地の県道231号線沿いに位置し、内科を主体に循環器科・呼吸器科・消化器科を含む内科領域を幅広い診療及び健診・予防接種の実施にて地域の多くの患者さんの診療をされています。





## 第13回『医療連携の集い』

副院長 緒方 宏臣

令和6年6月8日（土）、ホテル日航熊本において、「第13回熊本再春医療センター医療連携の集い」を開催しました。当日は院内外含め約200名の参加があり、盛況のうちに終了することができましたことを御礼申し上げます。

第一部は、5階「阿蘇」の会場において講演会を行いました。最初に私から、「診療支援部からのお知らせ」を行いました。続いて行われた特別講演では、上山院長に座長を務めていただき、人工関節センター長である私より、「人工関節センター設置後の現状について」、続いて山下整形外科部長より「新しい人工肩関節ーリバーズ型人工肩関節置換術についてー」というテーマで人工関節

センターの現状と今後の展望について講演を行いました。令和元年9月、新本館棟完成に合わせて人工関節センターを立ち上げておりますが、その後のコロナ禍で十分な広報も行えないまま今日に至っており、改めて人工関節センター立ち上げの背景、意義、多職種連携による安全・安心な医療の提供といった基本方針について説明を行い、熊本県下ではまだ実施施設が限られているリバーズ型人工肩関節についての知見を話してもらいました。



講演会の様子

講演会終了後は、第二部の意見交換会が行われました。上山院長の開会の挨拶、菊池郡市医師会会長の樽美 光一先生による来賓挨拶と乾杯の御発声の後に懇親会を行いました。宴も盛り上がり、中村統括診療部長の診療科医師紹介が行われ、最後は石崎診療支援部長の閉会の挨拶で幕を閉じましたが、多数の皆様方と懇親を深めることができましたことを御礼申し上げます。



意見交換会の様子

当院は今後も引き続き地域医療支援病院としての役割を果たすべく、菊池医療圏をはじめとする近隣医療機関の皆様方との医療連携を深めて参りたいと思いますので、ご指導をよろしくお願い申し上げます。

今年も6月7日（土）に第14回の「医療連携の集い」をホテル日航熊本にて開催予定です。多数の皆様のご出席をお待ちしております。



# 第78回国立病院総合医学会のご報告



看護部長室 副看護師長 勝木 信敬

令和6年10月18日～19日、第78回国立病院総合医学会が大阪市のグランキューブ大阪（大阪国際会議場）で、約6,300名が参加し開催されました。学会のテーマ「進化していく病院であるために ～心理的安全性の高い組織づくり～」のもと、特別講演、招待講演、教育講演、特別企画シンポジウム、パネルディスカッション、オーガナイズドセッションの他、一般演題（2,030題が採択）発表が盛況のうちに行われました。



当院からは一般演題として口演3題、ポスター発表9題の計12題が発表されました。私自身は今回、当院の栗崎内科部長が昨年度より導入された進行期パーキンソン病に対する新規治療であるホスレボドパ・ホスカルビドパ配合液持続皮下注療法の外来診療に際し、WOCナース（皮膚・排泄ケア認定看護師）として皮膚症状のモニタリングやケア方法の指導、穿刺部位の工夫などを外来看護師と共に継続看護として介入させて頂いた症例の報告を行いました。ベストポスター賞の受賞とはなりませんでしたが、2023年7月に世界に先がけて本邦で開始された治療であること（熊本県では当院が初導入）、治療開始後も皮膚トラブルをはじめ様々な有害事象への対応が必要となる治療

であることから、多くの方に関心を持って頂くことができました。栗崎内科部長をはじめ共同研究者にご支援いただいた皆様のおかげです。心より感謝申し上げます。

また、学会だけでなく会場周辺の観光も楽しみのひとつです。今回は残念ながら時間の都合もあり観光などは行えませんでした。電車を乗り継げばおおよそ30分程度で着く観光地（USJなど）や歓楽街も多く、雰囲気だけは楽しむことができました。次回は余裕をもってゆっくりと訪れることができればと思います。

最後に、発表を通してほかの施設の皆様とディスカッションできたことは大変有意義な経験でした。異なる立場や視点からの意見交換は、新たな発見と理解につながりました。これらの貴重な機会を提供して下さった病院関係や学会関係の皆様に関心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

次回（令和7年11月7～8日）は金沢での開催が予定されています。皆様、ぜひ参加し、より一層の充実した交流と学びの場を共有しましょう。





# 第18回 熊本再春医療センター 健康フェスティバル

管理課長 濱口 仁博

第 18 回健康フェスティバルを、11 月 30 日（土）に開催しました。2 日前から雨が降り続いていましたが、開催時間になると晴れ間が出てきて絶好の健康フェスティバル日和となりました。

今回の開催にあたっては、前回同様に講演のみの開催とするか、少し規模を拡大し催し物をするのか院内で検討し、子供向けのイベントを取り入れようということで、「キッズ白衣体験コーナー」や「ヨーヨー釣りコーナー」、「AED 装置を使っの一次救命コーナー」、「お薬相談コーナー」、「野菜測定チャレンジ」、「体力測定コーナー」、「芸術作品展」の催し物を開催し何れのコーナーも盛況でした。

健康講座では、冒頭、上山院長から開会挨拶をしていただき、緒方副院長の座長で講演が始まりました。統括診療部長の中村和芳先生に「せきの診断と治療」、関連して副臨床検査技師長の佐々木道太郎先生に「検査室で受けられるせきの検査」という内容で講演をして頂きました。いずれも、分かりやすい内容となっており、参加者の皆さんからも大変好評でした。

また、初めての試みとして、熊本県キッチンカー協会からキッチンカー 10 台を出して頂きどのキッチンカーの前にも行列が出来るほど大変好評でした。

来年も、たくさんの地域住民の皆さんに満足していただけるよう計画していきたいと思ひます。



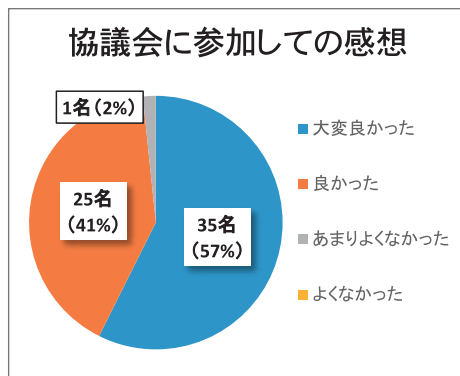
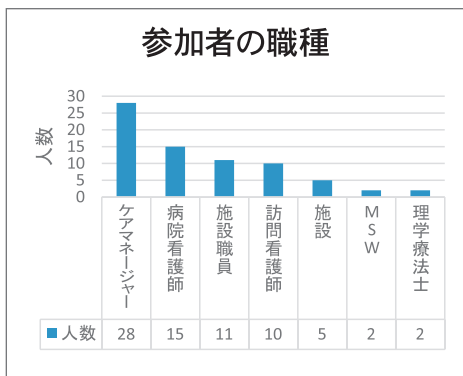
## 地域医療連携連絡協議会について

地域連携係長 積山 佳史

第 46 回熊本再春医療センター地域医療連携連絡協議会（看看・看介連携）を 9 月 6 日に開催しました。今回は当院脳神経内科の栗崎医師より「パーキンソン病患者に対するチーム医療について～疾患理解編～」について講演が行われました。院内外から多数の参加があり、医療機関、居宅事業所、訪問看護ステーションなど 35 施設から 73 名、院内からの参加者を含め 96 名の方に参加いただきました。

講演ではパーキンソン病の病態生理や最新の治療、正しいケア方法、多職種連携についてなど基礎的な知識から、医療者がケアをする上での注意点や多職種連携の大切さについてなどとてもわかりやすい内容で、参加者からも高評価をいただきました。

講演終了後のグループワークでは、「パーキンソン病は一日でも動作に波があり、気分も落ち込んだりするので、精神的ケアも大切」「パーキンソン病の診断を受け止められない家族もあるが、今回の講演を受けて疾患に対して正しい理解を促していきたい」など活発な意見交換が行われていました。



今回のような講演や意見交換会は院内外、多職種を交えて貴重な情報や思いの共有の場となりますので、これからも皆様のご要望にお応えできる会の運営をしていきたいと思ひます。

今年度は第 47 回の開催も計画しています。当協議会におけるご意見・ご要望がございましたらお気軽に地域医療連携室までご連絡ください。（代表：096-242-1000）